

**VII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告**

小・中特研部会

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

（1）年間活動報告

- ① 第1回事務局会の開催
- ② 令和2年度研究集録「むすび」、「全特協」、令和2年度収支決算報告書の配付
(R3年6月)
- ③ 第1回理事会（R3年7月 書面決議）
- ④ 九州地区難聴・言語障害教育研究大会「宮崎大会」（R3年7月 紙上発表）
- ⑤ 令和3年度全日本特別支援教育研究連盟第55回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「熊本大会」参加（R3年8月5日～8月6日 オンライン参加）
- ⑥ 九州地区情緒障害教育研究「福岡大会」（R3年8月6日 オンライン参加）
- ⑦ 第2回事務局会（R4年1月予定）
- ⑧ 第2回理事会の開催、研究集録「むすび」の発行（R4年2月予定）

3 主な研究成果

（1）成果

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、理事会の開催ができなかったが、各地区担当理事の協力を得ながら、名簿作成等を行うことができた。また、負担金についてもすべての地区特研から完納され、関係団体へ納金することができた。
- 令和3年度九特連「熊本大会」（R3年8月5日～8月6日 オンライン開催）では、東児湯地区新富町立新田小中学校 長友三織教諭が「交流及び共同学習」について発表した。
- コロナ禍の中、地区ごとに工夫を凝らしながらできる範囲での活動を行った。

（2）課題

- 各地区特研や障がい種別研究会から多くの協力を得られたが、活動推進に対しては本会から十分な支援を行うことができたとはいえない。
- 研究集録を冊子として作成・発行しているので、各学校での活用を呼びかけたい。

令和3年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

本年度は、第1回を6月に新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで実施し、第2回を12月に赤江まつばら支援学校にて対面で開催した。各回ともに半日の実施であったが、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた学校行事等の対応、ICTを活用した授業実践、共通様式（個別の指導計画・個別の教育支援計画）への移行に伴う進捗状況、令和4年度教育課程の各校の具体的な取組等の意見交換を行い貴重な会となった。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は年3回の部会を計画した。研究テーマ「これからの生徒指導の在り方～連携と改善」（SNS・校則）について、各校の課題等を集約し意見交換を行った。第1回は6月に感染症対策としてZoomにて、第2回は11月に知的部門で開催した。第3回は2月に研究のまとめと来年度のテーマについて検討する予定である。これからもミライム等を活用し、適宜必要な情報交換を行うことで連携を図り、共に課題解決に努めていきたい。

(3) 保健主事・養護教諭部会

今年度は、8月に予定していた合同部会が、新型コロナウイルス感染症の県内での感染状況を踏まえ、リモートでの開催となった。協議では新型コロナウイルス感染症に関する取組をはじめ、各校の多くの議題や取組について情報交換を行い、共有することができた。新型コロナウイルス感染症に関わる学校の対応は、今後も継続する可能性が高いと考える。今後も各校の課題や取組を共有し、研修等を重ね学校保健の充実に努めていきたい。

(4) 進路指導主事部会

本部会は、県立学校特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事（部会長）で構成されている。本年度の部会は、新型コロナウイルス感染症の影響から第1回目の開催を8月30日（月）にリモートで行った。各学校の進路学習の取組について情報交換を行い、「ともにたらくガイドブック」の協議もできた。第2回目の部会は2月18日（金）に延岡しろやま支援学校での開催を予定している。内容は、各学校の進路状況や進路指導上の成果や課題などについて協議を行い、次年度に役立てたい。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

本年度の栄養教諭部会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため第1回部会を7月8日Zoomを用いてオンラインで開催した。第2回以降も、新しい生活様式に即した協議の在り方として、Zoomを活用したオンライン会議やミライムを用いての情報交換を行っていききたいと考えている。今後も各校の課題や取組を共有し安心・安全な給食運営と食育の充実に努めていきたい。

(6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している『特別支援学校アート展』は、『第20回全国障害者芸術文化祭みやぎき大会』のプログラムのひとつとして、『こころのふれあうフェスタ作品展』と合同で『コロナイロ～県内障がい者アート作品展』を県立美術館で開催した。10月9日から10月17日の間の8日間で2097名が来場した。アート展の出品数は造形・絵画275点、書道12点、写真38点、立体55点、合計380点になった。

(7) 音楽科代表者部会

音楽科代表者部会を3回計画した。1回目は、令和4年度に宮崎県大会が予定されている九音研に向け、テーマ決定をし、今後の研究の在り方や研究計画を確認した。2回目は、2校による授業公開とそれについての授業研究、また九音研宮崎大会に向けての日程・内容確認やテーマに基づいた授業公開に向け、実践例や授業アイデア、指導過程の工夫等についての協議が活発になされた。3回目も、公開授業についての協議や具体的な準備の確認等をする予定である。

(8) 保健体育科代表者部会

本年度は年3回を計画したが、新型コロナウイルスの感染症の影響により計画を変更し、第1回目はZoomによるオンライン会議で、第2回についても時間を短縮して実施した。変更に伴い十分な研究活動が難しかったため、学校体育研究発表大会の研究や授業及び各学校の課題等を中心に協議を行った。第3回は児湯るぴなす支援学校で次年度の研究や保健体育科学習の充実につながる授業研究を行う予定である。

(9) 家庭科代表者部会

今年度は「新しい生活様式にあわせた家庭科教育とは ～本年度の実践から～」という研究主題を設定し、昨年度行う予定であった住生活に関する研修を2回計画した。第1回の部会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止になり、ミライム上でのやりとりを行った。第2回の部会は、みなみのかぜ支援学校で、収納アドバイザーの竹本千奈美氏を招いて「収納について」の講話をしていただいた。そしてその後、各学校の実践報告や来年度からの研究テーマ等についての話し合いを行った。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、第1回目を8月に清武せいりゅう支援学校を会場校とし、Zoom会議にて実施した。会場校の落合教頭から「新学習指導要領における自立活動の在り方」についての講義、事前アンケートを踏まえた各学校の情報交換を行った。第2回目は12月に 夢×人×地域「社会とつながる特別支援学校」推進事業、「自立活動の実践研究」実践報告会へ参加し、各校における自立活動の指導の実践例を広く共有することで専門性の向上を図った。より一層自立活動の指導の充実へと繋がる部会運営に努めていきたい。

(11) 情報教育代表者部会

第1回を6月に小林こすもす支援学校で開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりリモートでの開催となった。主な議題は、Google Workspaceの活用状況と、GIGAスクール

導入の iPad の運用とルール作り等であった。定期的な部会だけでなくミライムや GoogleWorkspace を活用した、担当者間の情報共有の場を設けることが了承された。第 2 回を令和 4 年 2 月に小林こすもす支援学校で開催予定である。